

若桜鉄道 持続可能な公共交通へ



若桜鉄道は、平成21年4月から八頭町・若桜町が鉄道用地や線路・駅舎等の鉄道施設を保有し、若桜鉄道株が運行を行う、全国初の公有民営の上下分離方式により運行しています。

平成28年4月には、若桜鉄道株が保有していた車両も両町が保有する運営となり、若桜鉄道の経営安定化に向けた支援を進めてきました。車両の老朽化や沿線人口の減少など、多くの課題に立ち向かいながら、開業100周年に向け走り続けています。

3期ぶり黒字決算

令和4年度も、新型コロナウイルス感染症の影響と燃油・物価高騰の煽りを受けながらの苦しい経営を余儀なくされましたが、収益の主となる旅客運輸収入は4441万円余りとなり、前年と比べ306万円余り増加しました。

通学費助成制度が浸透し、通学利用者が伸びたことのほか、「ウイズコロナ」の時代を迎え、これまで控えられていたツアーや個人旅行者が増加したことが主な要因として考えられます。

このほか、JRに貸し出す車両使用料収入、八頭町・若桜町から委託を受けて実施するマクラギ交換や車両修繕などの受託費、売店売上などの営業収益等の合計は3億1197万円余りでした。

令和4年7月に行った京都鉄道博物館での「準ラッピング列車」の特別展示や、若桜鉄道沿線各駅のイベントの再開、新たに製作した鉄道グッズを活用した物販イベントへの参加などが営業外収益の確保につながりました。



これに対し、人件費、業務費、運輸費、修繕費などの営業費用等の合計額は3億2335万円余りでした。

新型コロナウイルスや世界情勢の影響により燃料価格や物価の高騰の影響を受けながらも、国や県の新型コロナウイルス対策による支援、八頭町・若桜町からの運行支援策等を活用しながら、一層の経費削減に努めました。

収入を確保するため職員が一丸となって実施したイベントや、アイデアを出しながら造成した体験型商品の販売などを行った結果、コロナ禍にありながらも3期ぶりに業績が改善され、当期損益で74万円余りの黒字となりました。

輸送人員は大幅に増加

輸送人員の総合計は、前年を大きく上回る47万5170人となり、前年より9万7198人増加しました。そのうち普通旅客は、新型コロナウイルスの影響が残る中、個人旅行者の増加もあり、7万3656人と前年よりさらに4%増となりました。

また、通学利用者は、町や県の助成制度が浸透して公共交通機関を利用した通学が増え、34%増の35万7994人となりました。

公共交通事業者の連携

鉄道は、道路などと同様、地域を支える重要なインフラの一つですが、鉄道の意義や役割は時代とともに変化し、地域や路線によってさまざまです。

人口減少社会を迎え、地域の公共交通の再構築が叫ばれる中、JRをはじめとする多くの鉄道事業者は、急激な人口減少と過疎化に加え、物価高騰等により経営が苦しい状況が続いています。

このような中、利用者のさらなる利便性向上のため、交通事業者の垣根を越えて、さまざまな取り組みが実施されています。



▶鳥取郡家若桜間で昨年実施した鉄道とバスの共通バス実証実験チラシ

また、若桜鉄道では、鉄道ファンのみならず、親子で参加できる体験型観光商品の開発や八頭町のふるさと納税で体験型の返礼品を用意するなど、貴重な鉄道車両を活用したメニューの造成に力を注いでいます。



1. SL/DL 体験運転：汽笛を鳴らしながら構内を走行
2. 車両貸切撮影会：希望のシチュエーションで撮影できる魅力
3. 1日駅長体験：任命式後、乗車券販売、列車出発合図などを体験

今後、運転士や技術職員の育成にも力を入れ、「ウィズコロナ」「アフターコロナ」の社会を見据えながら、鉄道の魅力を改めて発信し、これからも安心安全な輸送機関としての役割を果たし、若桜線開業100周年を目指して走り続けます。